JGS 関東　新設杭に干渉する既存杭の撤去に関する研究委員会
第 13 回　議事録

■日　時：2020 年 12 月 16 日（水）14:00～17:00
■場　所：Web 会議（Zoom）
■出席者：桑原（パイルフォーラム）、青木（竹中）、加倉井（パイルフォーラム）、阿部（東京ソイル）、柏（国総研）、片山（東邦地下工機）、小坂井（MFR）、西（安藤ハザマ）、三反畑（安藤ハザマ）、古垣内（東急）、張（東急）、嶋田（大林）、森（熊谷）、福田（戸田）、長澤（清水）、栗本（清水）、原（西松）、伊藤（東亜）、小林（大成）、高岡（三井住友）、梶野（長谷工）、土屋（竹中）、宮本（東洋テクノ）、木谷（三谷セキサン）、田中（大洋基礎）、小川（旭化成）、細田（ジャパンパイル）、山下（不動テトラ）、有山（丸建興業）、野坂（八州建機）、媚山（新潟商事）、山本（代理：根岸）（地盤試験所）、飯島（土木研究所）

欠席：＿＿＿、記録：栗本

■配布資料

13-0-1_JGS 関東既存杭撤去第 13 回議事次第 201214
13-1-1_第 12 回既存杭の撤去に関する研究委員会_議事録案_201023
13-1-2_既存杭撤去委員会活動期間の延長申請願_201207
13-1-3_既存杭ガイドラインの出版形態について 201214
13-1-4_規格・基準の細則（2020.11.26）_201214
13-1-5_規格・基準細則　図-1（2020.11.26）_201214
13-2-1_既存杭手引き第 1 章(桑原)2020.10.28_201214
13-3-1_ガイドライン 2 章、6.1 節案_20201118。
13-4-1_第 12 回 WG2 議事録案
13-4-2_「3.1　埋戻し地盤の目標性能（強度等）の設定」201216
13-4-3_「3.2　埋戻し材料と埋戻し地盤の現状と課題」
13-4-4_「3.3　埋戻し地盤の調査の現状と課題」
13-4-5_「6.2 撤去埋戻し部の詳細情報」
13-5-1_第 13 回(20201203)WG3 議事録記録者：細田
13-5-2_ＷＧ３活動状況 20201216

■議事

1. 前回議事録の確認等

1.1 前回の議事録（資料 13-1-1）【福田委員】

・議事内容は承認された。

1.2 委員会の延長の報告（資料 13-1-2）【桑原委員長・青木幹事】

・本委員会の 1 年間の延長を JGS 関東支部に申請し、運営委員会にて承認された。2021 年 3 月までにはガイドラインの内容を査読できる形に整える。2021 年 4 月以降は出版も含めて講習会や PD も計画している。

1.3 出版の形態（資料 13-1-3，13-1-4，13-1-5）【桑原委員長】

・委員長および幹事、JGS 事務局で出版形態を検討している。出版名はガイドラインではなく、

委員会報告書や手引き、提言等の表現であれば出版可能である。出版方法については、紙媒体またはネット（オンライン）とするか等の検討を進め、2021 年 3 月までに確定する。

・JGS を通さずに、外部出版社との独自連携も考えている。基準類に関しては JGS 基準部が責任を取るが、独自連携の場合は責任の所在が曖昧となる。但し書きで、「～の参考とする」等の文言を記載したほうがよい。

2. ガイドラインのはじめに・目次（案）対応構成（資料 13-2-1）

2.1 ガイドラインのはじめに（案）【桑原委員長】

・まえがき（案）について報告がなされた。委員からの意見は特になし。

2.2 目次【桑原委員長】

・「1.1 背景・趣旨」では既存杭の取扱いを述べている。各 WG の役割をフローで記載してはどうか。

・3 章では「3.3 埋戻し地盤の調査の現状と課題」を述べるが、既存杭や埋戻し地盤を対象とした埋戻し前の調査に関する記述はない。既存杭に関する事前調査は、資料調査がメインになる。2 章では既存杭が存在している事実を前提とした構成である。従って、既存杭の撤去方法を述べる前に、「1‘.既存杭及び埋戻し地盤に関する事前（資料）調査」が必要であると考え、他章とは独立で追加した。

→1“の内容は杭位置や地盤に着目するので、独立ではなく、2 章の冒頭あるいは 3 章が適切ではないか。

→事前調査は誰が実施するのか。一般的に、土地を購入する前に既設構造物が存在するか等の情報を手に入れる。事前情報が得られない場合は新築工事の施工業者に事前調査を実施していただく。設計段階でそれらの情報が必要となる。5 章に記述するのもよいかもしれない。

→調査方法はどうするのか。実際には既存資料と試掘で確認する。図面を基に杭心位置を確認し、撤去する。~~既存杭が存在しない場合は元請と協議する。~~既存杭の施工精度も重要となる。

・1 章の序論では敢えて簡潔に述べているので、1“では具体的な記述をお願いしたい。資料調査（ソフト面）だけでなく、杭頭調査（ハード面）も記述してほしい。日建連の「既存杭地下工作物の取扱いに関するガイドライン」を参考に、WG2（SubWG2：高岡委員）で担当していただけるか。簡潔に触れるのであれば、「1.1 背景と趣旨」で述べることにする。

→WG2 で検討する。

3. WG1 の活動状況（資料 13-3-1）

3.1 ガイドライン WG1 の進捗状況【三反畑委員】

・各委員による査読結果は未だまとまっていない。

・拡底杭の撤去方法の区分（取り扱い）を議論している段階にある。

→全周回転機で撤去するのであれば、その説明で言及すればよい。

・「2.4 既存杭条件に応じた撤去・埋戻し工法の選定・適用範囲」は WG2 の内容を踏まえて、再調整する必要がある。

・「2.5 既存杭の撤去・埋戻しに関するトラブル例」を追加した。今後、詳細を詰めていく。

・6 章については、WG2 からの意見を反映させる。今後、調整していく。

4. WG2 の活動状況（資料 13-4-1，13-4-2，13-4-3，13-4-4，13-4-5）

4.1 ガイドライン WG2 の進捗状況【古垣内委員】

＜SubWG2＞

・「表 3.2.2　調査事例一覧」に関して、前項からの流れを考えると、本文説明(a)～(f)の列は表の最左列が適切ではないか。

・各整理 No.の埋戻し材の強度が記載されていない。全て問題無しとも理解できる。読者を混乱させるのではないか。後述される各整理 No.での適用性の項目にてその結果を述べるか、最終項にまとめとして記述するか。

・貧配合セメントミルクの貧配合とは何が貧配合（定量的な意味）か、構成意味も含めた定義と具体例の記述が欲しい。一部の事例では記載されていることもある。

→既製杭に用いられるセメントミルク（杭周固定液：W/C 60～70%）より少ない。ベントナイトは利用していない等の表現は可能である。ただし、目標強度に依存してセメント量も変動するので、具体値を述べるのは難しい。

＜SubWG3＞

・対応欄は残しておいても問題ない（実際には設計・監理者の対応は書けないと思われる）。

・目次の「6.2 撤去埋戻し部の詳細情報」では埋戻し部に着目しているが、説明内容は幅広いので、6.2 のタイトルを修正する必要がある。最低限必要な調査事項は残しておく。

5. WG3 の活動状況（資料 13-5-1，13-5-2）

5.1 ガイドライン WG3 の進捗状況【木谷委員】

・5 章の内容に関しては議論できていないので今後進めていく。

→次回の委員会では共有してほしい。

・4 章の内容は章全体も含めて他章との調整を 1 月 15 日（金）に行う。

・「4.4 既存杭に干渉する新設杭の施工計画のまとめ」の作成には、3 章「表 3.2.2　調査事例一覧」も利用する予定である。

・「4.4.2 既存杭の有無・位置把握のための調査（設計時に必要）」の記述箇所はどこにするか。

→先述議論したとおり、1“で具体的に述べる。「4.4 既存杭に干渉する新設杭の施工計画のまとめ」では手広く記述すると発散するので、「4.4.5 既存杭除去方法と干渉程度の留意事項まとめ」以外の 4.4.1～4.4.3 については簡潔にし、他章や他節で具体的に記述する。

→上記に関しては、まえがき・序論でも少し言及してほしい。

・付録のアンケート調査結果のまとめに関しては、関係者にメールにて相談する。

6. 今後の予定

・次　回：2021 年 2 月 1 日（月）14:00～17:00（Web 会議）

・次々回：2021 年 3 月 17 日（水）14:00～17:00（Web 会議）

以上